

# 阪神港の「国際コンテナ戦略港湾」選定に関する要望

阪神港国際コンテナ戦略港湾促進協議会

日本の港湾は、東アジア諸港の台頭により、大きくその地位がゆらぎ、国際競争力が低下しています。とりわけ阪神港は、成長が著しい東アジアの主要港との国際競争の最前線に立っており、韓国政府の強力なバックアップのもと国際ハブ港湾の地位を築いた釜山港とのサービス・コスト面での競争は厳しく、その地位の低下は、わが国経済・産業の成長に影響を及ぼすものであり、日本の港湾の海外フィーダー化を阻止し貨物を奪還することが、喫緊の課題であると考えております。

わが国においては、東西に長い地形特性を踏まえた物流の効率性から、さらには大規模災害等へのリスク管理、国民生活の安定からも、東西2つの国際ハブ港が必要であり、また、経済大国一国に匹敵する西日本経済や大阪湾岸に集積する次世代・先端産業を支えていくためにも、阪神港を国際コンテナ戦略港湾として位置づける必要があります。

阪神港として、国際コンテナ戦略港湾の責務を果たし、日本の成長戦略に寄与することを目指し、集荷機能の強化、民の視点に立った港湾経営主体の構築、産業の立地促進による創荷といった戦略の実現に向け、最大限の自助努力を行うとともに、さらなる効果を発揮させるべく、

国策としての支援を含め、現状に立脚した実現可能な戦略港湾の計画を提案しております。

国際物流機能の高い優位性を持つ阪神港を国際コンテナ戦略港湾として選定されるとともに、阪神港の機能強化に資する施策を集中的に実施されるよう要望いたします。

平成 22 年 5 月 12 日

阪神港国際コンテナ戦略港湾促進協議会代表 矢田 立郎

関西経済連合会会長

下妻 博

大阪商工会議所会頭

佐藤 茂雄

神戸商工会議所会頭

水越 浩士

大阪府知事

橋下 徹

兵庫県知事

井戸 敏三

大阪市長

平松 邦夫

神戸市長

矢田 立郎

(参考)

## 阪神港 提案骨子

### 1．集荷機能の強化

阪神港の優位性である、西日本各地と直結する内航フューダー・フェリーネットワークをさらに充実・強化するための規制緩和、支援を実施し、阪神港の集荷機能を強化する。

### 2．民の視点に立った港湾経営主体の構築

大阪、神戸両港の埠頭公社の株式会社化、経営統合を進めるとともに、民間の資本や人材の投入を促進するための規制緩和、支援を実施し、効率的、戦略的な港湾経営主体を構築する。

### 3．国際コンテナ戦略港湾総合特区の創設

次世代・先端産業が集積し、パネル・ベイ、グリーン・ベイとも呼ばれる大阪湾臨海部において、さらなる産業の立地を促進するための規制緩和、支援を実施し、阪神港を利用する貨物を創出するとともに、上記1．2の施策とも総合的に展開し、相乗効果を発揮させるための「国際コンテナ戦略港湾総合特区」を創設する。